

令和5年度 60回生 授業概要(シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅰ (脳神経系)	分野/教育内容	専門基礎分野/ 疾患の成り立ちと回復の促進
開講年次・時期	2年前期 令和5年5月19日	単位数/時間	1単位/30時間 疾病と治療Ⅰの単元は以下のとおり ・ <u>脳神経系</u> ：15時間 ・ 感覚器系：15時間
担当講師名	麻生 謙太	所属・職位	県立宮古病院脳神経外科科長兼 リハビリテーション科長兼診療情報管 理長
		資格・免許	医師
授業の概要	系統別疾患の病態・治療・検査を理解する		
到達目標	1. 神経の成り立ちと、脳と脊髄の構造を理解し、脳・脊髄の障害部位と発症症状とを関連させ理解できる 2. 脳・脊髄の障害された部位や、程度に対応する症状の病態生理について理解する 3. 脳・神経疾患の治療・検査の方法を理解する		
事前学習内容	脳・神経の解剖生理を復習しておく（必須）		
成績評価の方法	試験による評価(100点満点)		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ脳・神経 成人看護学⑦		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第1回	第2章 脳・神経系の構造と機能		講義
第2・3回	第3章 症状とその病態生理		
第4・5回	第4章 検査・診断と治療・処置		
第6・7回	第5章 疾患の理解		
履修上の留意点	1. 1年次に学習した、本科目に関連した解剖学・生理学の学習内容を復習し、さらに専門的な知識を習得するように努力する 2. 不明な点は放置せずに自分で調べたり、質問したりして積極的に授業に臨む		

令和5年度 60回生 授業概要(シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅰ (感覚器系)	分野/教育内容	専門基礎分野/ 疾病の成り立ちと回復の促進
開講年次・時期	2年前期 令和5年6月14日	単位数/時間	1単位/30時間 疾病と治療Ⅰの単元は以下のとおり ・ 脳神経：15時間 ・ <u>感覚器：15時間</u>
担当講師名	人見 晶	所属・職位	岩手県立宮古病院・循環器内科医長
		資格・免許	医師
授業の概要	系統別疾患の病態・治療・検査を理解する		
到達目標	1. 感覚器の構造と機能を理解できる 2. 疾患の病態・治療・検査を理解できる		
事前学習内容	感覚器系に関する解剖生理学を復習しておく（必須）		
成績評価の方法	試験(100点)		
使用テキスト	医学書院：成人看護学⑫皮膚、成人看護学⑬眼、成人看護学⑭耳鼻咽喉		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第1回	【皮膚】 第2章 皮膚の構造と機能 第3章 症状とその病態生理 第4章 検査と治療・処置		講義
第2回	第5章 疾患の理解①		
第3回	第5章 疾患の理解②		
第4回	【眼】 第2章 眼の構造と機能 第3章 症状とその病態生理 第4章 検査と治療 第5章 疾患の理解①		
第5回	第5章 疾患の理解②		
第6回	【耳鼻咽喉】 第2章 耳鼻咽喉・頸部の構造と機能 第3章 症状とその病態生理 第4章 検査と治療 第5章 疾患の理解① 耳疾患、鼻疾患		
第7回	第5章 疾患の理解② 口腔・咽喉頭疾患、気道・食道・頸部疾患と音声・言語障害		
履修上の留意点	1. 不明な点は放置せずに自分で調べたり、質問したりして積極的に授業に臨む 2. 新型コロナウイルス禍にある過酷な状況の中で授業に来ていただいている講師に、感謝の気持ちをもって授業に臨む		

令和4年度 60回生 授業概要(シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅱ (呼吸器)	分野/教育内容	専門基礎分野/ 疾患の成り立ちと回復の促進	
開講年次・時期	1 年後期 令和 4 年 11 月 17 日	単位数/時間	1 単位/30 時間 本科目は以下の 2 単元で構成される ・ 呼吸器：15 時間 ・ 循環器：15 時間	
担当講師名	宮本伸也	所属・職位	岩手県立山田病院 病院長	
		資格・免許	医師	
	伊藤貴司	所属・職位	岩手県立宮古病院 呼吸器内科長	
		資格・免許	医師	
授業の概要	呼吸器系疾患の病態・検査・治療を学ぶ			
到達目標	呼吸器系疾患の病態・検査・治療を理解する			
事前学習内容	本単元に関する人体の構造と機能の学習内容を復習しておく			
成績評価の方法	試験による評価(100 点)、授業を受ける態度、出席状況			
使用教科書	新体系看護学全書 成人看護学②呼吸器(第 4 版第 4 刷、メヂカルフレンド社)			
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態	担当
第 1～3 回	第 2 章 呼吸器の症状と病態生理 第 3 章 呼吸器疾患にかかわる診察・検査・治療		講義	宮本
第 4 回	第 4 章 呼吸器の疾患と診療 Ⅰ、呼吸器感染症		講義	伊藤
第 5 回	第 4 章 呼吸器の疾患と診療 Ⅱ、気道疾患 Ⅲ、胸膜疾患			
第 6 回	第 4 章 呼吸器の疾患と診療 Ⅳ、縦隔疾患 Ⅴ、横隔膜疾患 Ⅵ、間質性肺疾患			
第 7 回	第 4 章 呼吸器の疾患と診療 Ⅶ、肺循環障害 Ⅷ、換気異常 Ⅸ、肺腫瘍 Ⅹ、胸部外傷・救急時の対応			
試験				
履修上の留意点	1. 教科書の本授業に関連する内容に必ず目をとおしてから授業を受ける 2. 分からないことはそのままにせず、疑問を解決できるように行動する 3. 新型コロナウイルス禍にある過酷な状況の中で授業に来ていただいている講師に、感謝の気持ちをもって授業を受ける 4. 自身の考えや疑問点は積極的に表現し、主体的に学ぶ姿勢で授業に臨む			

令和4年度 60回生 授業概要(シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅱ(循環器)	分野/教育内容	専門基礎分野/ 疾患の成り立ちと回復の促進
開講年次・時期	1 年後期 令和 4 年 11 月 28 日	単位数/時間	1 単位/30 時間 治療と疾病Ⅱは 呼吸器系：15 時間 循環器系：15 時間 を合わせて 1 単位となる
担当講師名	前川 裕子	所属・職位	県立宮古病院
		資格・免許	医師
授業の概要	循環器疾患の病態・検査・治療を学ぶ。		
到達目標	循環器疾患の病態・検査・治療について理解する。		
事前学習内容	循環器に関する解剖生理学・病理学の復習を行うこと。		
成績評価の方法	試験による評価(100 点)、出席状況		
使用教科書	成人看護学③「循環器 (第 5 版)」 メジカルフレンド社		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第 1 回	第 1 章 循環の構造と機能		講義
第 2 回	第 2 章 循環器の症状と病態生理		
第 3 回	第 3 章 循環器疾患にかかわる診察・検査・治療		
第 4 回	第 4 章 循環器の疾患と診療①		
第 5 回	第 4 章 循環器の疾患と診療②		
第 6 回	第 4 章 循環器の疾患と診療③		
第 7 回	総括		
履修上の留意点	・ 教科書や事前配布の資料には、必ず目をとおしてから授業を受ける ・ 授業毎の予習・復習を確実にする ・ 主体的に授業に臨む		

令和4年度 60回生 授業概要(シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅲ (消化器)	分野/教育内容	専門基礎分野/ 疾病の成り立ちと回復の促進
開講年次・時期	1 年後期 令和 4 年 10 月 6 日	単位数/時間	1 単位/30 時間 疾病と治療Ⅲは以下の 3 単元で構成される ・ <u>消化器…14 時間</u> ・ 内分泌・代謝…8 時間 ・ 口腔・歯科…8 時間
担当講師名	吉田 健	所属・職位	岩手県立宮古病院・消化器内科長兼医療 研修科長兼災害医療科長
		資格・免許	医師
授業の概要	消化器系疾患の病態・検査・治療学ぶ		
到達目標	消化器系疾患の病態・検査・治療を理解する		
事前学習内容	解剖学と生理学で学習した消化器系に関する内容を復習しておく		
成績評価の方法	試験(100 点)、受講態度、出席状況		
使用教科書	新体系看護学全書 成人看護学⑤ 消化器(第 5 版) メジカルフレンド社		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第 1 回	食道の疾患の病態・症状・検査・治療		講義
第 2 回	胃の疾患の病態・症状・検査・治療		
第 3 回	腸の疾患の病態、症状、検査、治療		
第 4 回	大腸癌・虫垂炎・肝臓疾患の病態・症状・検査・治療		
第 5 回	胆嚢・肝臓の疾患の病態・症状・検査・治療		
第 6 回	膵臓・肝の疾患の病態・症状・検査・治療		
第 7 回	肝の疾患の病態・症状・検査・治療		
試験			
履修上の留意点	1. 教科書の本授業に関連する内容に必ず目をとおしてから授業を受ける 2. 分からないことはそのままにせず、疑問を解決できるように行動する 3. 新型コロナウイルス禍にある過酷な状況の中で授業に来ていただいている講師に、感謝の気持ちをもって授業を受ける 4. 自身の考えや疑問点は積極的に表現し、主体的に学ぶ姿勢で授業に臨む		

令和4年度 60回生 授業概要(シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅲ (内分泌・代謝)	分野/教育内容	専門基礎分野/ 疾病の成り立ちと回復の促進
開講年次・時期	1 年後期 令和 4 年 10 月 24 日	単位数/時間	1 単位/30 時間 疾病と治療Ⅲは以下の 3 単元で構成される ・ 消化器…14 時間 ・ 内分泌・代謝…8 時間 ・ 口腔・歯科…8 時間
担当講師名	大久保 仁	所属・職位	岩手県立宮古病院 内科・糖尿病代謝内科長
		資格・免許	医師
授業の概要	内分泌・代謝疾患の病態・検査・治療を学ぶ		
到達目標	内分泌・代謝疾患の病態・検査・治療を理解する		
事前学習内容	解剖学および生理学で学習した、内分泌・代謝系に関する内容を復習しておく		
成績評価の方法	試験(100 点)、受講態度、出席状況		
使用教科書	成人看護学⑥ 内分泌・代謝 第 15 版第 4 刷(医学書院)		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第 1 回	内分泌・代謝器官の構造と機能		講義
第 2 回	内分泌代謝疾患の症状とその病態生理・診断・治療①		
第 3 回	内分泌代謝疾患の症状とその病態生理・診断・治療②		
第 4 回	内分泌代謝疾患の症状とその病態生理・診断・治療③		
試験			
履修上の留意点	1. 教科書の本授業に関連する内容に必ず目をとってから授業を受ける 2. 分からないことはそのままにせず、疑問を解決できるように行動する 3. 新型コロナウイルス禍にある過酷な状況の中で授業に来ていただいている講師に、感謝の気持ちをもって授業を受ける 4. 自身の考えや疑問点は積極的に表現し、主体的に学ぶ姿勢で授業に臨む		

令和4年度 60回生 授業概要(シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅲ (口腔・歯科)	分野/教育内容	専門基礎分野/ 疾患の成り立ちと回復の促進
開講年次・時期	1 年後期 令和 5 年 1 月 19 日	単位数/時間	1 単位/30 時間 疾病と治療Ⅲは以下の 3 単元で構成される ・ 消化器…14 時間 ・ 内分泌・代謝…8 時間 ・ <u>口腔・歯科</u> …8 時間
担当講師名	道又 俊	所属・職位	道又歯科医院
		資格・免許	歯科医師
授業の概要	口腔・歯科疾患の病態・検査・治療を理解する		
到達目標	看護師として、必要最低限の口腔領域に関する知識を習得し、患者の信頼を得る人材となることを目標とする		
事前学習内容	解剖学と生理学で学習した口腔・歯科に関する内容(教科書の第 2 章)を復習しておく		
成績評価の方法	試験(100 点満点)		
使用教科書	系統看護学講座 専門 成人看護学⑮ 歯・口腔(医学書院、第 14 版第 3 刷)		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第 1 回	歯科・口腔学概論		講義
第 2 回	歯科疾患、外傷、口腔粘膜疾患		
第 3 回	全身疾患と歯科疾患の関連、口腔ケアの必要性		
第 4 回	まとめ		
	試験		
履修上の留意点	1. 教科書の本授業に関連する内容に必ず目をとおしてから授業を受ける 2. 分からないことはそのままにせず、疑問を解決できるように行動する 3. 新型コロナウイルス禍にある過酷な状況の中で授業に来ていただいている講師に、感謝の気持ちをもって授業を受ける 4. 自身の考えや疑問点は積極的に表現し、主体的に学ぶ姿勢で授業に臨む		

令和4年度 60回生 授業概要(シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅳ (血液・造血器)	分野/教育内容	専門基礎分野/ 疾患の成り立ちと回復の促進	
開講年次・時期	1 年後期 令和 4 年 10 月 6 日	単位数/時間	1 単位/30 時間 本科目は以下の 3 単元で構成される ・ 血液・造血器：10 時間 ・ 運動器：10 時間 ・ アレルギー：10 時間	
講師/所属・職位 /資格・免許	伊藤貴司/岩手県立宮古病院・呼吸器内科長/医師 菖蒲澤大樹/岩手県立宮古病院・呼吸器内科医師/医師			
授業の概要	血液・造血器疾患の病態・検査・治療を学ぶ			
到達目標	血液・造血器疾患の病態・検査・治療を理解する			
事前学習内容	本単元に関する人体の構造と機能の学習内容を復習しておく			
成績評価の方法	試験による評価(100 点)、受講態度、出席状況			
使用教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 4 血液・造血器 (第 15 版第 4 刷、医学書院)			
授業回数	授業概要(主な学習内容)		講師	授業形態
第 1 回	第 3 章 検査・診断と症候・病態生理		伊藤	講義
第 2 回	第 4 章 疾患と治療の理解 A. 赤血球系の異常			
第 3 回	第 4 章 疾患と治療の理解 B. 白血球系の異常 C. 造血器腫瘍		菖蒲澤	
第 4 回	第 4 章 疾患と治療の理解 C. 造血器腫瘍			
第 5 回	第 4 章 疾患と治療の理解 D. 出血性疾患			
終講試験				
履修上の留意点	1. 教科書の本授業に関連する内容に必ず目をとおしてから授業を受ける 2. 分からないことはそのままにせず、疑問を解決できるように行動する 3. 新型コロナウイルス禍にある過酷な状況の中で授業に来ていただいている講師に、感謝の気持ちをもって授業を受ける 4. 自身の考えや疑問点は積極的に表現し、主体的に学ぶ姿勢で授業に臨む			



令和4年度 60回生 授業概要(シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅳ (運動器)	分野/教育内容	専門基礎分野/ 疾患の成り立ちと回復の促進
開講年次・時期	1 年後期 令和 4 年 12 月 8 日	単位数/時間	1 単位/30 時間 本科目は以下の 3 単元で構成される ・ 血液・造血器：10 時間 ・ <u>運動器</u> ：10 時間 ・ アレルギー・膠原病：10 時間
担当講師名	白倉 義博	所属・職位	岩手県立宮古病院・ 副院長兼整形外科長兼救急医療科長
		資格・免許	医師
授業の概要	運動器疾患の病態・検査・治療を学ぶ		
到達目標	運動器疾患の病態・検査・治療を理解する		
事前学習内容	本単元に関する人体の構造と機能を復習しておく		
成績評価の方法	試験による評価(100 点) 、受講態度 、出席状況		
使用教科書	新体系看護学全書 成人看護学⑪ 運動器 （第 4 版第 4 刷、メヂカルフレンド社）		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第 1 回	第 1 章 運動器の構造と機能		講義
第 2 回	第 2 章 運動器の症状と病態生理		
第 3 回	第 3 章 運動器疾患にかかわる診察・検査・治療		
第 4・5 回	第 4 章 運動器疾患と診療		
履修上の留意点	1. 教科書の本授業に関連する内容に必ず目をとおしてから授業を受ける 2. 分からないことはそのままにせず、疑問を解決できるように行動する 3. 新型コロナウイルス禍にある過酷な状況の中で授業に来ていただいている講師に、感謝の気持ちをもって授業を受ける 4. 自身の考えや疑問点は積極的に表現し、主体的に学ぶ姿勢で授業に臨む		

令和4年度 60回生 授業概要(シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅳ (アレルギー・膠原病)	分野/教育内容	専門基礎分野/ 疾患の成り立ちと回復の促進
開講年次・時期	1 年後期 令和 5 年 1 月 19 日	単位数/時間	1 単位/30 時間 本科目は以下の 3 単元で構成される ・ 血液・造血器：10 時間 ・ 運動器：10 時間 ・ <u>アレルギー・膠原病：10 時間</u>
担当講師名	吉田 健	所属・職位	岩手県立宮古病院・消化器内科長兼医療研修科長兼災害医療科長
		資格・免許	医師
授業の概要	アレルギー・膠原病疾患の病態・検査・治療を学ぶ		
到達目標	アレルギー・膠原病疾患の病態。検査・治療を理解する		
事前学習内容	解剖学と生理学で学習したアレルギーに関する内容を復習しておく。また、教科書のアレルギーおよび膠原病の第 1・2 章は予習しておく		
成績評価の方法	試験（100 点）、受講態度、出席状況		
使用教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 11 アレルギー 膠原病 感染症（第 15 版第 2 刷） 医学書院		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第 1 回	膠原病・アレルギー・感染症の概要		講義
第 2 回	アレルギー疾患の病態生理・症状・診断・治療		
第 3 回	膠原病の病態生理・症状・診断・治療		
第 4 回	感染症の病態生理・症状・診断・治療		
第 5 回	感染対策		
試験			
履修上の留意点	1. 教科書の本授業に関連する内容に必ず目をとおしてから授業を受ける 2. 分からないことはそのままにせず、疑問を解決できるように行動する 3. 新型コロナウイルス禍にある過酷な状況の中で授業に来ていただいている講師に、感謝の気持ちをもって授業を受ける 4. 自身の考えや疑問点は積極的に表現し、主体的に学ぶ姿勢で授業に臨む		

令和5年度 60回生 授業概要（シラバス）

科目名	疾病と治療Ⅴ (腎・泌尿器)	分野/教育内容	専門基礎分野/ 疾患の成り立ちと回復の促進
開講年次・時期	2 年後期 令和 5 年 11 月 30 日	単位数/時間	1 単位/30 時間 本科目は以下の単元で構成される ・ 女性生殖器：10 時間 ・ <u>腎・泌尿器：10 時間</u> ・ 臨床検査：10 時間
担当講師名	仲林 弘剛	所属・職	岩手県立宮古病院
		資格・免許	医師
授業の概要	泌尿器科における疾患の病態・検査・治療を理解する		
到達目標	1. 腎・泌尿器の形態と構造を理解する 2. 疾患の病態を理解し、その診断・検査・治療・経過を理解する		
事前学習内容	1 年次に学習した腎・泌尿器に関連する内容(解剖学、生理学)を復習しておく		
成績評価の方法	試験(100 点)		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎・泌尿器 成人看護学⑧ (医学書院)		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第 1 回	第 2 章 腎・泌尿器の構造と機能		講義
第 2 回	第 3 章 症状とその病態生理 尿の異常、排尿に関連した症状、浮腫、脱水、循環器系の異常 血液の異常、尿毒症、疼痛、腫脹・腫瘤、その他の症状		
第 3 回	第 4 章 検査と治療・処置 診察、検査、治療と処置、排尿管理、透析療法、腎移植		
第 4・5 回	第 5 章 疾患の理解 腎不全と AKI・CKD、ネフローゼ症候群、糸球体腎炎 全身性疾患による腎障害、尿細管間質性腎炎、腎血管性病変 尿細管機能異常、妊娠高血圧症候群、尿路・性器の感染症 尿路の通過障害と機能障害、尿路損傷および異物、尿路結石症 尿路・性器の腫瘍、発生・発育の異常 男性不妊症・男性性機能障害、その他の男性生殖器疾患		
履修上の留意点	1. 教科書の本授業に関連する内容に必ず目をとおしてから授業を受ける 2. 分からないことはそのままにせず、疑問を解決できるように行動する		

令和5年度 60回生 授業概要(シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅴ (女性生殖器)	分野/教育内容	専門基礎分野/ 疾病と成り立ちと回復の促進
開講年次・時期	2 年前期 令和 5 年 5 月 23 日	単位数/時間	1 単位/30 時間 本科目は以下の単元で構成される ・ <u>女性生殖器：10 時間</u> ・ 腎・泌尿器：10 時間 ・ 臨床検査：10 時間
担当講師名	土屋 繁一郎	所属・職位	岩手県立宮古病院 産婦人科医長
		資格・免許	医師
授業の概要	女性生殖器系疾患と病態生理・検査・診断・治療について学ぶ		
到達目標	1. 女性生殖器の形態と構造、性腺の発育や性ホルモンの動態、妊娠について理解する 2. 疾患の病態を理解し、その診断・検査・治療・経過を理解する 3. 種々の検査の目的・方法を理解する		
事前学習内容	テキストの範囲の解剖生理学(特に、女性生殖器の構造やホルモンの分泌)を復習しておく		
成績評価の方法	試験(100 点)		
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ EX 疾患と看護 女性生殖器 メディカ出版		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第 1 回	1. 女性生殖器の構造と機能 2. 女性生殖器の異常でみられる症候		講義
第 2 回	3. 婦人科で行われる診察・検査		
第 3 回	4. 婦人科で行われる治療・処置		
第 4 回	5. 女性生殖器の疾患①		
第 5 回	6. 女性生殖器の疾患② まとめ		
履修上の留意点	1. 教科書の本授業に関連する内容に必ず目をとおしてから授業を受ける 2. 分からないことはそのままにせず、疑問を解決できるように行動する		

令和5年度 60 回生 授業概要(シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅴ 臨床検査	分野 /教育内容	専門基礎分野 /疾病の成り立ちと回復の促進
開講年次・時期	2 年 令和 5 年 10 月頃開講	単位数 /時間	疾病と治療Ⅴ 30 時間/1 単位 (女性生殖器疾患、腎・泌尿器疾患、臨床検査)
担当講師名	所属・役職 岩手県立宮古病院 検査科		
	臨床検査技師長	三浦 達也	
	副臨床検査技師長	佐々木 まゆみ	
	副臨床検査技師長	前川 久美	
	主査臨床検査技師	大久保 真樹	
	臨床検査技師	油川 舜	
授業の概要	臨床判断の基盤となる疾病・治療・診断と身体に及ぼす影響について理解する		
到達目標	疾病の診断や治療方針の決定、治療効果の評価に必要な臨床検査の意義や目的を理解し、検査データを解釈できる		
事前学習内容	シラバスを参照し、授業概要に沿って教科書に事前に目を通して授業に臨むこと		
成績評価の方法	終講試験（100 点満点）		
使用テキスト	系統看護学講座（別巻）臨床検査 医学書院		
授業回数	授業概要(主な学習内容)	担当講師	授業形態
第 1 回	臨床監査とその役割	三浦 達也	講義
第 2 回	一般検査	大久保 真樹	講義
第 3 回	血液学的検査他	佐々木 まゆみ	講義
第 4 回	化学検査・免疫血清検査・内分泌学的検査	油川 舜	講義
第 5 回	生体検査・生理機能検査・画像検査	前川 久美	講義
	終講試験 45 分		
履修上の留意点	・ 不明な点は、その場で積極的に質問し、分からないところは授業の中で理解するように努めること ・ 既習学習内容（生理学、生化学、疾病と治療）と関連させながら学習を進めること		

令和5年度 60 回生 授業概要(シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅵ 外科的治療	分野/教育内容	専門基礎分野/疾病の成り立ちと回復の促進
開講年次・時期	2 年前期 令和 5 年 6 月 2 日	単位数/時間	疾病と治療Ⅵ 30 時間/1 単位 (外科的治療、放射線医学、リハビリテーション)
担当講師名	細井 信之	所属・役職	岩手県立宮古病院 第 2 外科長
		資格・免許	医師
授業の概要	外科的治療の主な目的と適応、治療が生体に与える影響について学ぶ		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手術侵襲による生体の反応と創傷管理について理解する</li> <li>・ 外科的治療を要する疾患・症状について理解する</li> <li>・ 外科治療を支える麻酔や周手術期の管理について理解する</li> <li>・ 外科治療の基本手技について理解する</li> </ul>		
事前学習内容	シラバスを参照し、授業概要に沿って事前に教科書を読んで授業に臨むこと		
成績評価の方法	終講試験（100 点満点）		
使用テキスト	系統看護学講座（別巻）臨床外科看護総論 医学書院		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第 1 回	第 1 章 外科医療の基礎		講義
第 2 回	第 2 章 外科治療を要する疾患・症状		講義
第 3 回	第 3 章 外科治療を支える分野①		講義
第 4 回	第 3 章 外科治療を支える分野②		講義
第 5 回	第 4 章 外科治療の実際①		講義
第 6 回	第 4 章 外科治療の実際②		講義
第 7 回	第 5 章 救急処置法の実際		演習・講義
	終講試験 4 5 分		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不明な点は、その場で積極的に質問し、分からないところは授業の中で理解するように努めること</li> <li>・ 既習学習内容（解剖学、生理学、病理学、疾病と治療）と関連させながら学習を進めること</li> </ul>		

令和5年度 60回生 授業概要(シラバス) (案)

科目名	疾病と治療Ⅵ 放射線医学	分野/教育内容	専門基礎分野/ 疾患の成り立ちと回復の促進	
開講年次・時期	2年後期 令和 年 月 日	単位数/時間	疾病と治療Ⅵ 1単位/30時間 (外科的治療、放射線医学、 リハビリテーション)	
担当講師名	南久保 ひとみ	所属・職位	岩手県立釜石病院	
		資格・免許	がん放射線療法看護認定看護師	
	県立宮古病院 診療放射線技師	所属・職位		
		資格・免許		
授業の概要	放射線治療の主な目的と適応、治療が生体に与える影響について学ぶ			
到達目標	主要な画像診断の特徴について理解する 放射線治療の目的と適応、照射の種類と生体に与える影響について理解する			
事前学習内容	シラバスを参照し、授業概要に沿って事前に教科書を読んで授業に臨むこと			
成績評価の方法	試験による評価(全講師の合計点数：100点)			
使用教科書				
授業回数	授業概要(主な学習内容)		講師	授業形態
第1回	第1章 画像診断と看護		南久保ひとみ (試験 25点)	講義
第2回	第2章 X線診断、第3章CT、第4章MRI		宮古病院 診療放射線技師 (試験配点： 1コマ 25点)	
第3回	第6章 核医学検査、第7章IVR・血管造影			
第4回	第8章 放射線治療総論			
終講試験				
履修上の留意点	1. 不明な点は、その場で積極的に質問し、分からないところは授業の中で理解するように努めること 2. 既習学習内容（疾病と治療）と関連させながら学習を進めること			

令和5年度 60回生 授業概要

科目名	疾病と治療Ⅵ リハビリテーション	分野/ 教育内容	専門基礎分野/ 疾病の成り立ちと回復の促進
開講年次・時期	2年後期 令和6年1月17日	単位数/ 時間	疾病と治療Ⅵ 1単位/30時間 (外科的治療、放射線医学、 リハビリテーション)
担当講師名	岩手県立宮古病院 リハビリテーション科	副リハビリテーション技師長	
		理学療法士	芳賀 真由美
		理学療法士	來田 彩
		言語聴覚士	店場 佳歩
		作業療法士	山本 裕貴
授業の概要	リハビリテーション治療の主な目的と適応、治療が対象に与える影響について学ぶ		
到達目標	1. リハビリテーションに必要な基本的な評価ツールを理解できる 2. 解剖生理や病態の特徴と関連づけて、障害による患者・家族の日常生活への影響を理解できる 3. 対象に応じたリハビリテーションの実際を理解できる		
成績評価の方法	試験による評価（50点満点）		
使用テキスト	系統看護学講座（別巻）リハビリテーション看護（医学書院）		
授業回数	授業概要（主な学習内容）		担当講師
第1回	第1章 リハビリテーション総論 第5章 ステージ別リハビリテーション看護		芳賀 真由美 (配点 20点)
第2回	第7章 生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護 運動機能障害 呼吸機能障害		來田 彩 (配点 10点)
第3回	第7章 生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護 摂食嚥下障害 言語障害		店場 佳歩 (配点 10点)
第4回	第7章 生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護 高次機能障害		山本 裕貴 (配点 10点)
履修上の留意点	1. 本授業に関連する教科書の内容に目を通してから授業を受ける 2. 分からないことはそのままにせず、疑問を解決できるように行動する 3. 授業に来ていただいている講師に感謝の気持ちをもって授業を受ける 4. 自身の考えや疑問点は積極的に表現し、主体的に学ぶ姿勢で授業に臨む		